

「駒の湯復活応援団」設立趣意書

東北地方のほぼ中央にブナの原生林、高山植物、湿原などの自然や温泉が魅力の栗駒山があります。その栗駒山麓の深い森に 1617 年に発見され、翌年の開湯と伝えられる「駒の湯温泉」がありました。静かな山の中に硫黄の匂いが漂う駒の湯は、お湯は言うまでもなく、家族的なおもてなし、素朴な山の料理、そして自然の美しさが評判で、多くの人を惹きつけてやまない魅力あふれる温泉でした。

平成 20 年 6 月、岩手・宮城内陸地震（マグニチュード 7.2）の直後に大規模土石流が発生し、駒の湯温泉は押し潰され、宿泊客、従業員とご家族の 7 名が亡くなり、回収して間もない温泉旅館と自宅も失ってしまいました。

あれから 7 年 3 か月の歳月が流れました（*1）。平成 20 年の秋、土石流に埋もれた源泉とは別の源泉が復活しているのを発見、平成 22 年に犠牲者を悼む慰霊碑を建立、平成 24 年には「くりこま高原温泉郷協議会」から足湯をご寄付いただき、栗駒耕英地区の人たちのご協力により設置しました。平成 25 年に駒の湯周辺の砂防工事が完了、同年 11 月には山から下りた生活を余儀なくされていた駒の湯のご家族が自宅を再建して山に帰ってきました。

400 年の歴史があり、栗駒山の観光拠点としての役割も担っていた駒の湯温泉を復活させたいと願うご主人は、名湯「駒の湯温泉 湯小屋」の建設を進めています（*2）。小さな湯小屋ですが、駒の湯温泉の復活を目指す一歩を踏み出そうとしています。

土石流で失われた駒の湯温泉のあった場所では、かつての森の再生をめざすとともに、犠牲になった方の鎮魂と地域の復興を祈る「くりこま絆の森 植樹プロジェクト」が、行政、関係団体、地域住民、NPO や民間企業のご協力により平成 25 年秋から始まっています。昨年（平成 26 年）の植樹活動には約 90 名が参加し、ブナ、ミズナラ、カエデなど約 300 本の苗木を植えました。

「駒の湯温泉 湯小屋」の開業にあわせて、駒の湯温泉を応援しようとする有志が集まり、「駒の湯温泉復活応援団」を設立します。栗駒山麓の四季折々の自然を楽しみ、湯小屋でゆっくりくつろぎ、みんなでわいわいと語りながら、駒の湯温泉の復活を応援する人たちの集まりです。

これまでの駒の湯温泉ファンのみならず、かつての駒の湯温泉をご存じないみなさま、一人ひとりのお知恵とお力をお寄せいただいて、駒の湯温泉湯小屋を見守るとともに、駒の湯温泉の復活を応援してくださいますようお願いいたします。

平成 27 年 9 月 1 日

駒の湯温泉復活応援団 設立呼びかけ人一同

*1：平成 27 年 9 月現在

*2：平成 27 年 10 月から日帰り入浴を再開しました（4/下～11 上中旬）